

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102604
法人名	医療法人北斗会
事業所名	グループホーム宇都宮
所在地	栃木県宇都宮市平出町377番地1 (電話) 028-689-6600

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年12月24日	評価確定日	平成21年1月27日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日, 平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤6人, 非常勤1人, 常勤換算5.2人	
	7 人	常勤6人, 非常勤1人, 常勤換算5.48人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代—1,500円 ・おむつ代—実費 ・水道光熱費—19,530円	・レクリエーション費—実費 ・教養娯楽費—実費
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無		—
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年12月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1		名	要介護2		4 名
要介護3		8 名	要介護4		3 名
要介護5		2 名	要支援2		名
年齢	平均 86.6 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮東病院, 済生会宇都宮病院, 屋代歯科医院, 新直井病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念に掲げている「ゆったり、いきいきと、自分らしい生活を」入居者が送れるように、あえて日課のようなものは決めず入居者が自分の思う通り暮らし、それをスタッフが支える支援を行っている。家族の写真を枕元におき、それを見ながら笑ったり泣いたりしている入居者に対し、傍らに寄り添い気持ちを共有している支援場面が見受けられたことから、入居者の言葉、行動、思いを受容し、入居者一人ひとりに合った支援を大切にしている様子がうかがえた。日々の支援、受診の付き添いなど、どの職員でも同じレベルでできるように研修を積んでいる。職員が自分たちのすべきことを積極的に意見として出していることから、職員の能力が向上していると管理者は捉えている。職員の能力の向上を理念の実践につなげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善の取り組みの中で「記録を見やすくする」、「再発防止となるようなヒヤリハット集の活かし方」、「入居者の行動の捉え方、入居者の行動を予想する力を向上させる」など様々な気づきを取り入れている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットに評価担当者を置き、職員で分担して自己評価を行い、各ユニットの評価担当者2名がまとめ、管理者が仕上げた。評価を受けて課題となったことについては、全体会議、各ユニットでのカンファレンスで話し合い、改善の取り組みにつなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今まで夜間を想定した避難訓練は行っていたが、実際に夜間に避難訓練を行ったことはなかった。運営推進会議に参加している家族から夜間避難訓練の実施について意見が出されたこともあり、事業所としても実際に夜間に避難訓練を実施する検討に入っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族の来訪時に家族と話すことを大切にしている。「報告の正確さ」、「タイムリーに知らせること」を心がけ、家族との信頼関係を築けるように努力している。同一敷地内の病院に異動した前管理者がアドバイザーとして関わっており、電話や訪問の際など前管理者と家族が話す機会を持ってもらっている。前管理者は、この関係性を家族の意見や要望などを尋ねる良い機会として捉えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くにある平石地区市民センターで地域の人と一緒にコンサートを楽しんだり、地域の小学校の運動会では入居者が参加する競技がプログラムに加えられているなど地域の一員として受け入れられている。また、平石地区防災福祉ネットワークでの取り組みを通じて地域との関係が更に深まってきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に掲げている「ゆったり、いきいきと、自分らしい生活を」入居者が送れるように、日々のサービスは、入居者のペースに配慮して行われている。そのため、決まった一日のプログラムを掲げず、その日にやりたいことを入居者に事前に聞いて対応するようにしている。	○	地域との関わりを持つ努力を続ける中、地域での役割、地域の中にグループホームが存在する意義が徐々に明確になってきている。このことを踏まえて職員全員で話し合い、地域密着型サービスとして「地域の中で暮らし続けることを支えていくための拠り所」となることについても理念に加えていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、ホーム会議、ユニットごとのカンファレンス、日々の申し送り等、様々な機会を活かして理念を確認しながら自分たちがすべきことを実践している。職員が自分たちがすべきことを積極的に意見として出していることから、職員の能力が向上していると管理者は捉えている。職員の能力の向上を理念の実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くにある平石地区市民センターで地域の人と一緒にコンサートを楽しんだり、地域の小学校の運動会では入居者が参加する競技がプログラムに加えられているなど地域の一員として受け入れられている。また、平石地区防災福祉ネットワークでの取り組みを通じて地域との関係が更に深まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットに評価担当者を置き、職員で分担して自己評価を行い、各ユニットの評価担当者2名がまとめ、管理者が仕上げた。評価を受けて課題となったことについては、全体会議、各ユニットでのカンファレンスで話し合い、改善の取り組みにつなげている。改善の取り組みの中で「記録を見やすくする」、「再発防止となるようなヒヤリハット集の活かし方」、「入居者の行動の捉え方、入居者の行動を予想する力を向上させる」など様々な気づきを取り入れている。		

グループホーム宇都宮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加している家族から夜間避難訓練の実施について意見が出されている。また、地域包括支援センターからは、今まで協同して行っていることがないので、今後連携できることがあったら一緒に行いたいとの提案があった。家族からの要望や地域包括支援センターの提案など運営推進会議の場を活かして意見が出てきている。	○	今まで夜間を想定した避難訓練は行われているものの、実際に夜間に避難訓練を行うことはなかった。家族から意見が出されたこともあり、事業所としても避難訓練を夜間に実施する検討に入っている。実行の方法などを運営推進会議でも検討することで、共に質の向上を図っていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族が介護に窮している状況で相談があった際（特に困難事案）に、市から適切な対応をするための情報やアドバイスがあり、入所に至った事例もある。	○	市の担当者が運営推進会議に直接参加することがないので、日常的に事業所側から市に積極的に働きかけ、地域密着型サービスの抱える課題についての情報を共有できるようにしておくことに期待したい。また、市内のグループホームの連絡会等に市にも積極的に参加してもらい、同業者も交えたサービスの質の向上につながる話し合いの場となるよう試みていくことにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、入居者の近況報告、行事案内を記載した手書きのお便りを写真を添えるなどして出している。その他、入居者の担当スタッフが家族の来訪時に近況を伝えている。担当スタッフが不在でも他のスタッフが伝えることができるようになっている。文章で伝えることは、直接言葉で伝えるように心がけている。健康状態の報告では受診内容、薬の変更なども伝えている。入居者の日用品、診察費などの支払いは、ホームで立て替え、個人別の出納帳を作成し、利用料と合わせて請求している。支払い時に領収書を提示し確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時に家族と話す機会を大切にしている。報告の正確さ、タイムリーに知らせることを心がけ、家族との信頼関係を築けるように努力している。同一敷地内の病院に異動した前管理者がアドバイザーとして関わっており、電話や訪問の際など前管理者と家族が話す機会を持ってもらう。ホームと適度な関係のある前管理者が家族の意見や要望など尋ねる良い機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用時の実習では、「優しそうでいい」「雰囲気がいい」といった印象を入居者に聞き、採用の参考にしている。管理者の異動があったが、前管理者はアドバイザーとして関わり、ホームを訪れることで入居者との関係を切らないような配慮をしている。		

グループホーム宇都宮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人の老人保健施設と共同で年間研修計画を立て、在職や経験年数により、段階的に研修を実施している。管理者と1階のユニットリーダーが研修担当者となり、研修会に出やすく、資格取得をしやすい体制をつくり、常勤、パートの区別なく全員が研修を受けるようになっている。日々の支援、受診の付き添いなど、どの職員でも同じレベルでできるように研修を積んでいる。認知症介護実践研修など外部研修への参加者は、月1回行われる夜勤者以外全職員が参加する研修会で研修内容を伝達することになっている。	○	職員が伝達研修で講師となることは、学んできたことを整理でき、職員自らも育つことができる。伝達研修の機会も大切にしながら、職員一人ひとりの質の向上に今後も努めていくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。また、地域の特別養護老人ホーム、ケアハウス、障害者の作業所等とロビーコンサートや平石地区防災福祉ネットワークの活動を通じて交流がある。各施設間で防災協定を結び、相互に防災訓練に参加・協力する関係ができてきている。特別養護老人ホームでの夜間避難訓練に参加したことで、実際の夜間避難訓練のイメージが持て、グループホームでも夜間避難訓練を想定訓練でなく実際に行う検討を始めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の段階から本人にも家族と一緒にホームに来てもらうようにしている。すでに入居している入居者が迎え入れ、お茶の時間などを一緒に過ごし、「いいところよ」「待っているわよ」と促してくれることで安心感が生まれている。短期入居で試してみることも可能になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「入居者が伝えようとしていること」を大切にしている。ちょっとした行動から不安を察知して声をかけるようにしている。入居者は職員の変化に気づかひの声をかけてくれる。食事の準備、片付けなど職員の手助けをしてくれる。お互いの思いやりが支え合う関係をつくっている。		

グループホーム宇都宮

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的なアセスメントは入居者の担当スタッフが入居時に行うが、その後、介護計画作成担当者が、日々の申し送りや介護の記録から入居者の意向、課題となることを把握している。日々の生活の様々な場面で入居者が「こうしたい」との思い、暮らしていく中での希望を聞き取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの思いや希望は担当スタッフを中心に日常的に把握し、家族の意見は来訪時に聞き、介護計画に反映している。それぞれのユニットで申し送りの時間、ユニットのカンファレンス等の時間を使って介護計画作成担当者が入居者の担当スタッフとでサービス担当者会議を行い、ホーム会議の場でも意見を聞き、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月を基本としているが、入居者の状態に変化が生じた場合職員間で話し合いその都度見直している。その場合も家族に説明し新たな介護計画としている。入居者別に介護計画と介護記録が同時に見られるようなファイルを作っており、介護記録を書くときに計画の内容を確認できるようになっている。そのため介護計画と実際のサービスの符合ができるので、見直しの必要性が明らかになるように工夫がされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護の指定を受けている。また、併設病院や法人内の他部署との管理スタッフ会議が定期的にあることで、ホーム内の現状が適時法人内で共有され、法人内看護師の定期的訪問などにより健康管理や医療的なアドバイスがされている。		

グループホーム宇都宮


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族と相談しながら受診支援を行っている。また、併設病院で受診する際には医療情報の適切な提示の観点からもスタッフが同行して受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の対応については個別に対応できる体制が整っており、実際に要介護度の高い入居者も複数人入居している。今年度、家族の強い希望で一人の入居者を看取った経験を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全スタッフは理念のもと、入居者の言葉や行動をまず受容し、入居者一人ひとりに合った支援を実践している。法人としてプライバシーマークの取得を目指しており、個人情報保護の徹底は厳格に行っている。全スタッフが個人情報に関する誓約書を書き、法人に提出している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて日課のようなものは決めずに入居者が自分の思う通りに暮らし、それをスタッフが支えるという支援を行っている。家族の写真を枕元におき、それを見ながら笑ったり泣いたりしている入居者に対し、思いを受容し、傍らに寄り添って気持ちを共有している支援場面が見られた。		

グループホーム宇都宮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が立てた献立を基本に、各ユニットでその日の入居者の状態等に合わせてメニューを変えて提供している。また、入居者の希望、特技などを把握しており、一緒に調理できる入居者とは共に食事づくりを行っている。入居者一人ひとりの嗜好を全スタッフが把握できるようにキッチンに一覧を表示して調理の都度配慮できるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前、午後、夜間と好きな時間に入浴が可能な体制が整っている。本人の体調、気分等も考慮し、気持ち良く入浴できるような声かけなど工夫しながら支援している。すべては入居者の状況に合わせての体制であり、希望者がいなければ夜間の入浴は行わないなど柔軟な対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意なこと、昔行っていた仕事などを把握しており、無理なく力を発揮し役割が持てる支援がなされている。一人暮らしが長かった男性が調理を行ったり、掃除が好きな入居者にはテーブル拭きやゴミだしなど、日常の中で自然に自分のできる仕事が行える環境がつけられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	開設当時は買い物など日常的な外出を支援できていたが、長い入居生活の中で入居者の状態変化に伴い難しくなっている。そのため、一人ひとりの入居者が行きたい所に職員と1対1で行くようになり、入居者の笑顔が見られている。ホームのその時々状況に合わせて、一人ひとりの入居者を大切に支援を実践している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初から、21時以降に施錠する以外は鍵をかけていない。入居者の特性を全スタッフが把握しており、外に出たい入居者がいれば声をかけて中に入ってもらったり、近くを散歩して帰ってきたりと、個別の対応がなされている。また、以前は近くに家のある入居者に付き添ってスタッフが家まで一緒に歩いて行ったこともあった。		

グループホーム宇都宮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練が実施されており、全スタッフが的確に対応ができるよう、新人職員が参加できるようなシフトの配慮もしている。夜勤は各階1名ずつ配置されているが、緊急時は敷地内の併設病院が対応してくれる体制も整っている。自主点検表も作成されており、災害対策には力を入れている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には法人の管理栄養士が作成したメニューで食事が提供され、水分は、お茶の時間、入浴、体操後などこまめに摂取するよう支援している。また、入居者個々の嗜好、食事パターンを把握しており、嫌いなメニューは調理方法や食材を工夫して提供している。食事中に何気ない声かけをして、食べ忘れがないよう支援していた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの奥には掘りごたつが置かれ、入居者は自分の時間を思い思いにゆったりと過ごすことができる環境が整っている。居室を拝見するためスタッフがリビングに座っている入居者に声をかけると「どうぞ」と案内してくれたり、調査終了後には玄関まで見送りに来てくれる入居者がいたり、自分の家のように過ごしている入居者の雰囲気が伝わってきた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の部屋には仏壇や以前使っていた布団などが持ち込まれており、家族の協力もあって居心地良い空間となっている。また、自分のベッドの枕元に家族の写真の入ったアルバムをおき、折に触れ見るとは、泣いたり笑ったりしている入居者に寄り添って思いを共有するなど、物だけではなく居心地の良さを提供する姿勢がうかがえた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。